

令和8年度 第1回 札幌市救急医療体制検討部会

日時 令和8年6月23日(火)18時30分～
会場 ORE札幌ビル 8階 大会議室

本日の内容

1. 報告事項

- 救急医療に係る統計情報について
- その他

2. 審議事項

- 二次救急医療体制の見直しの方向性について

3. その他

- 次回の開催予定について



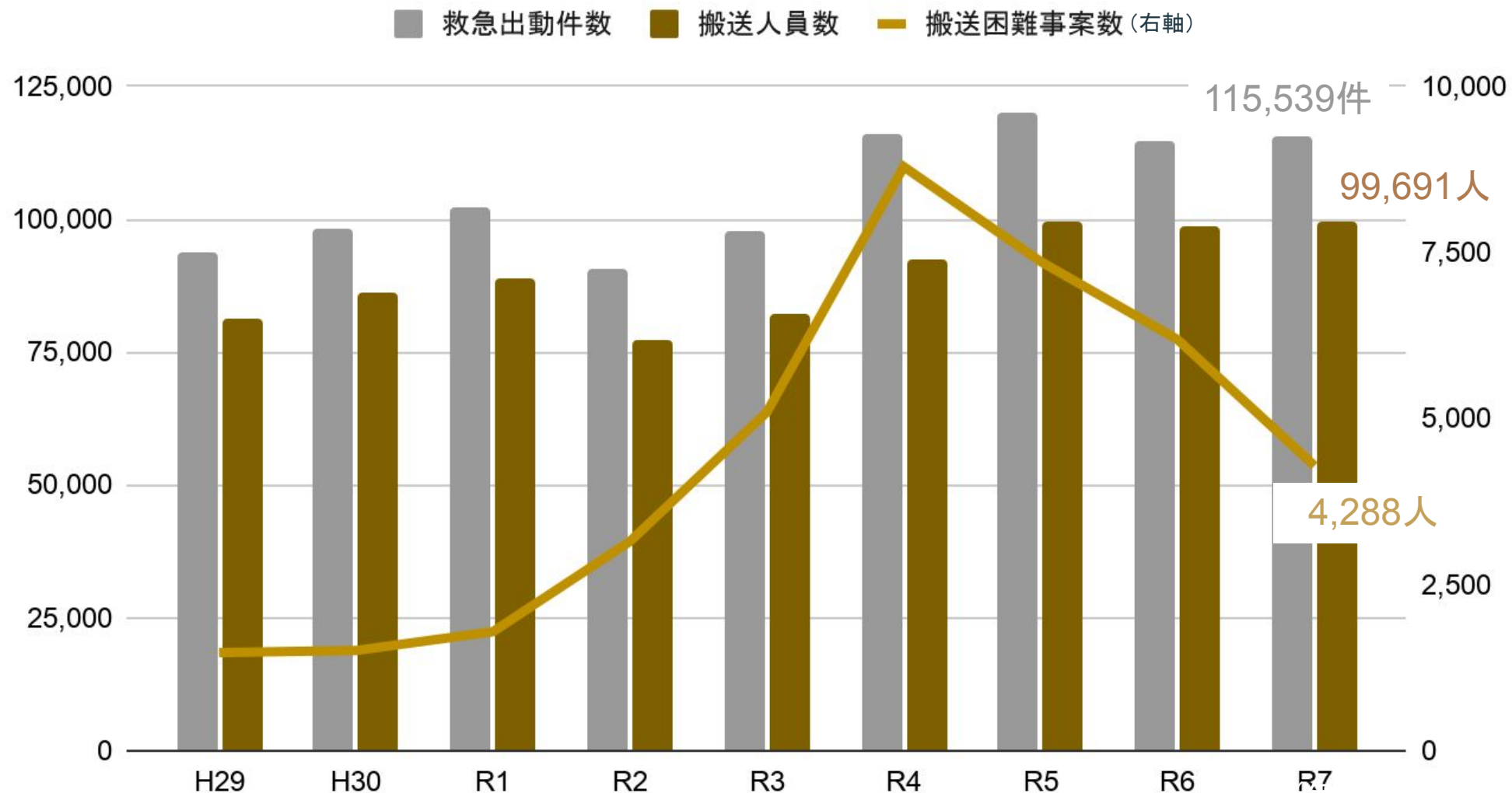
1 報告事項

救急医療に係る統計情報について



統計情報

● 救急出動件数・搬送人員数・搬送困難事案数

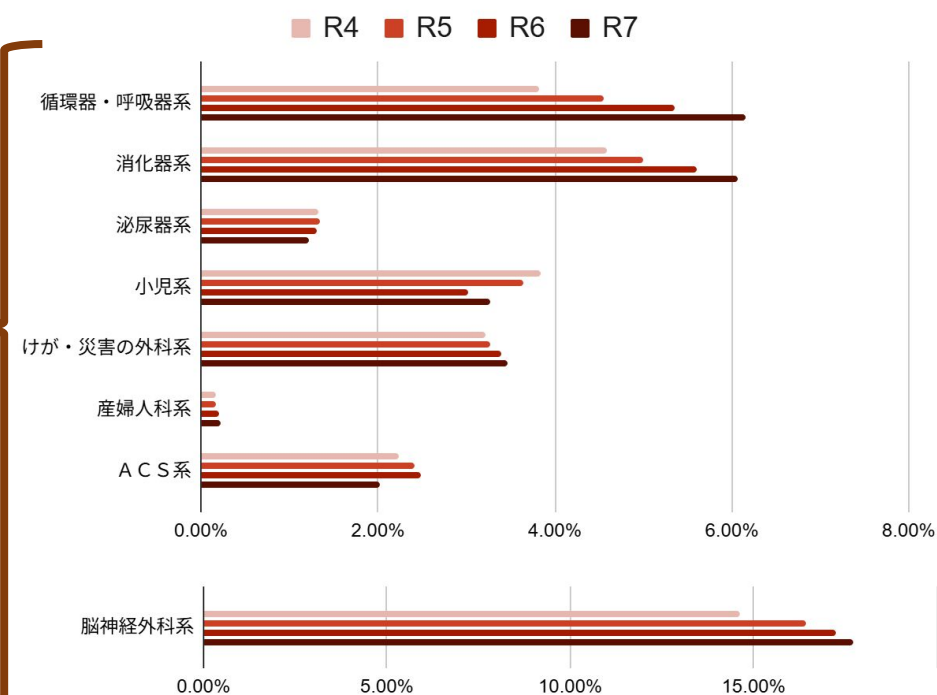


※引用: 札幌市消防局提供データ

救急時間帯

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
三次 救急医療機関	3.3%	3.0%	2.9%	2.8%
二次 救急医療機関	33.8%	36.8%	38.6%	40.0%
二次 救急医療機関 (当番日以外)	47.6%	44.1%	43.3%	42.6%
初期 救急医療機関	15.3%	16.1%	15.2%	14.6%

【二次診療系ごとの搬送割合】



統計情報

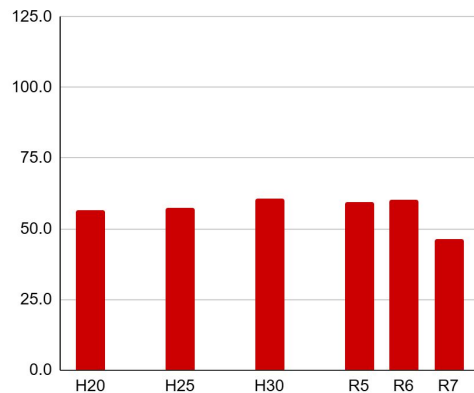
● 救急医療機関の利用患者数

いずれも、1施設・1当番日当たりの平均利用患者数

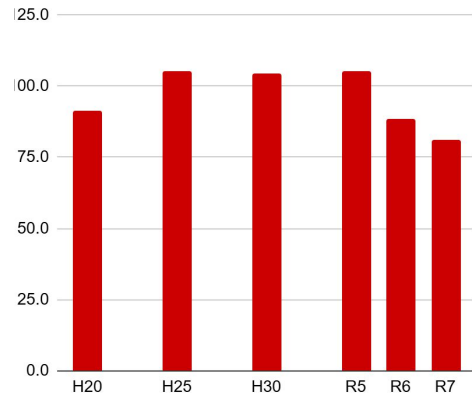
※札幌市医師会提供データより分析

● 休日当番

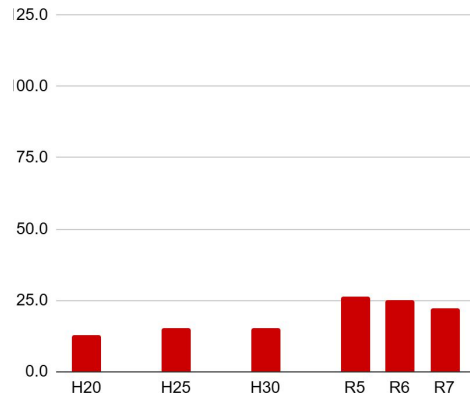
内科



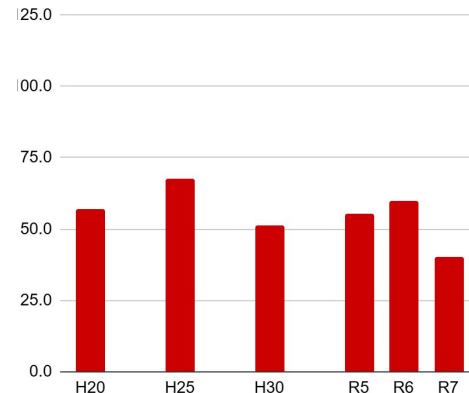
小児科



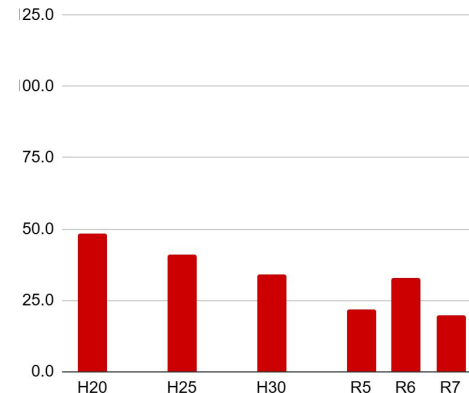
産婦人科



耳鼻咽喉科

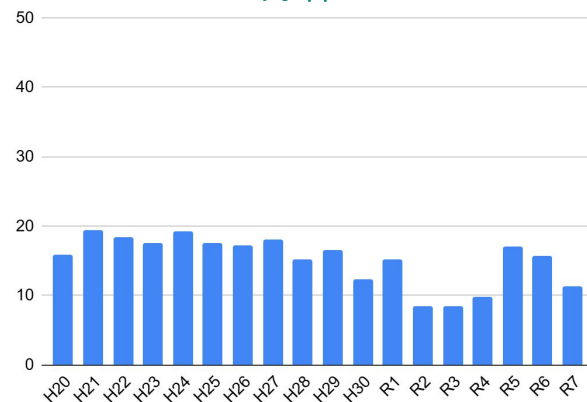


眼科

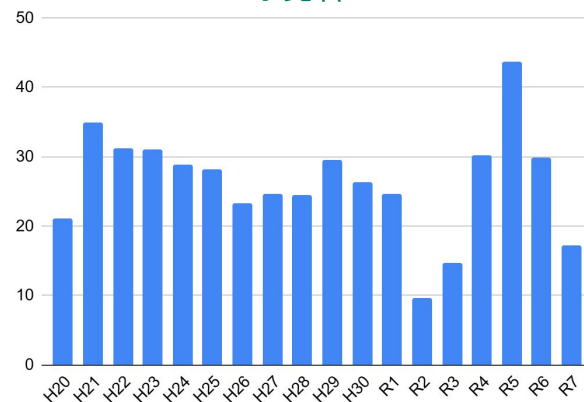


● 土曜午後当番

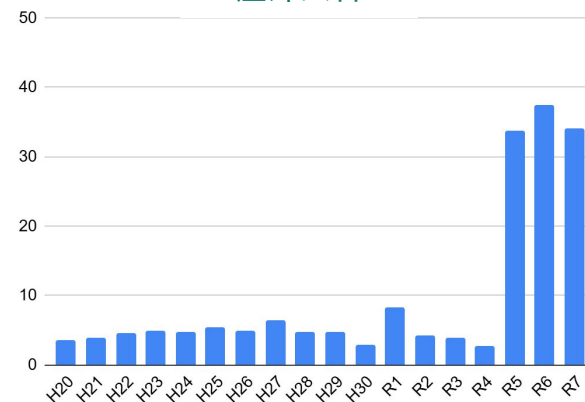
内科



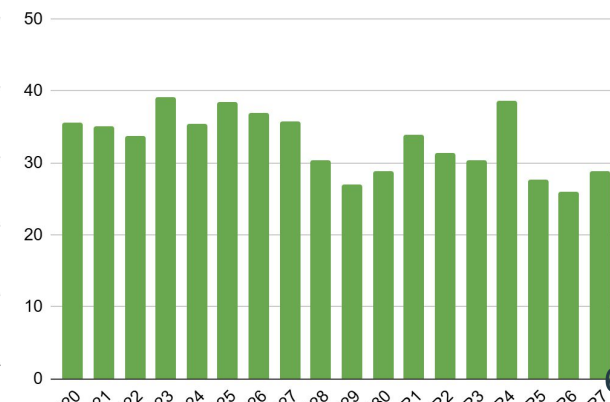
小児科



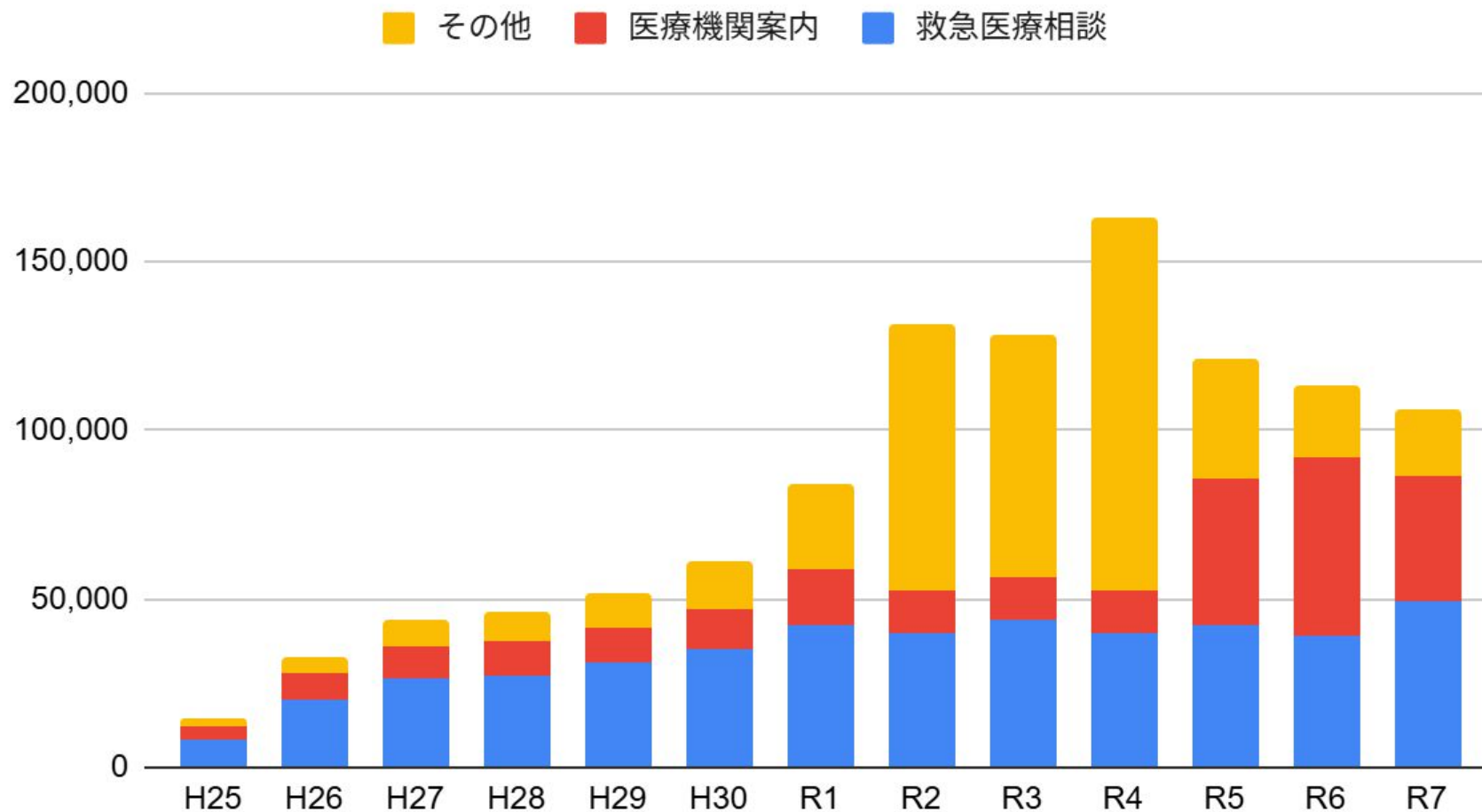
産婦人科



● 外科系初期



救急医療相談（年度）



・ R7.10 委託事業者変更
⇒体制強化により救急医療相談
件数の割合が増加

・ R7.10 恵庭市、長沼町が参加
⇒10市町村が参加（札幌市を含む）

※R8.10 江別市が参加予定

統計情報

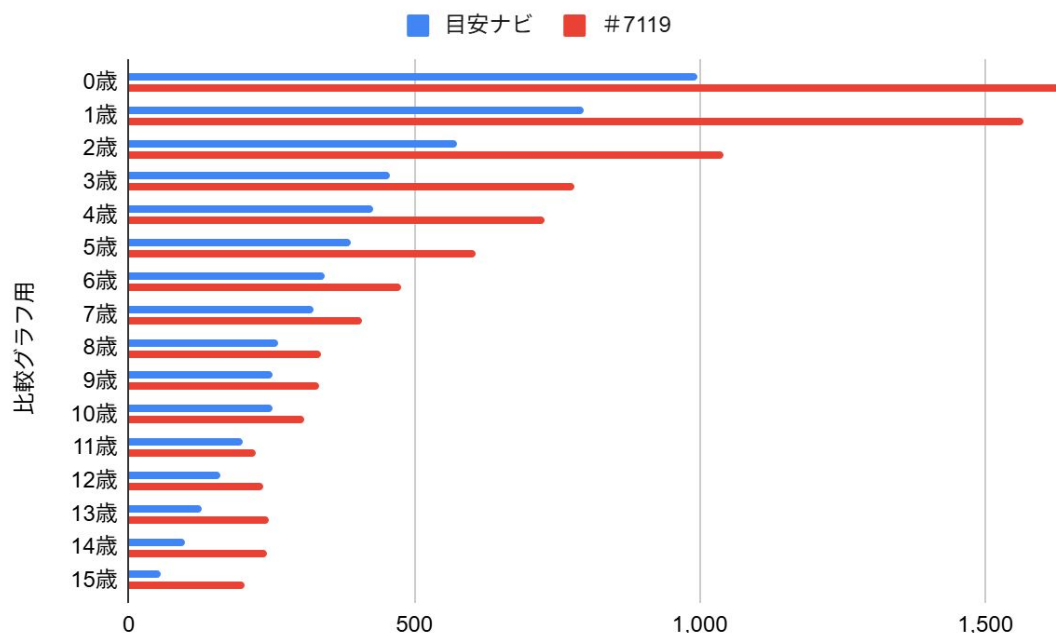
● 救急医療相談(WEBツール)の利用者数

適正受診(休日救急当番の適正利用)の推進

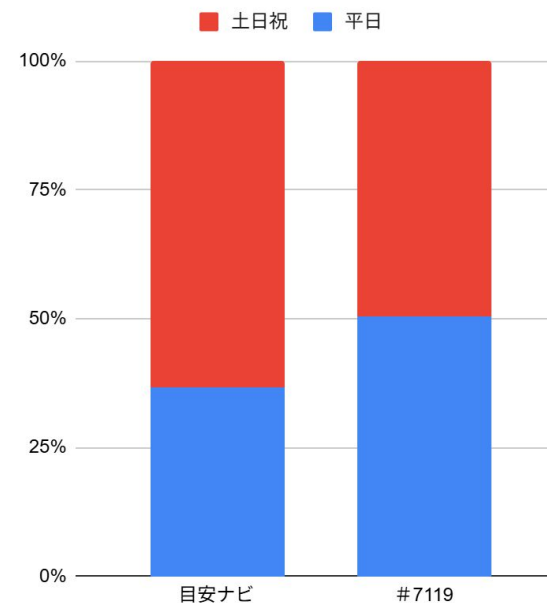
- ⇒子育て世代のニーズに合わせた適正受診の推進を目的に、令和7年8月よりWEBツール「こどもの症状 受診の目安ナビ」の実証実験を開始
- ⇒令和8年度(2026.4～2027.3)も継続して利用可能



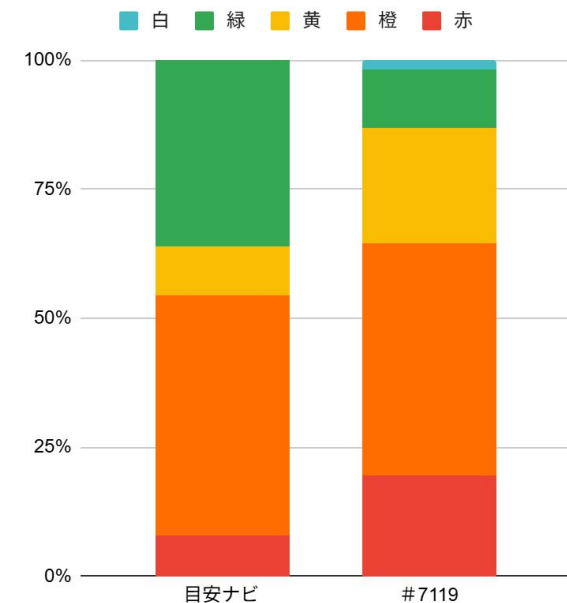
●対象患者の年齢



●利用時間帯



●判定結果

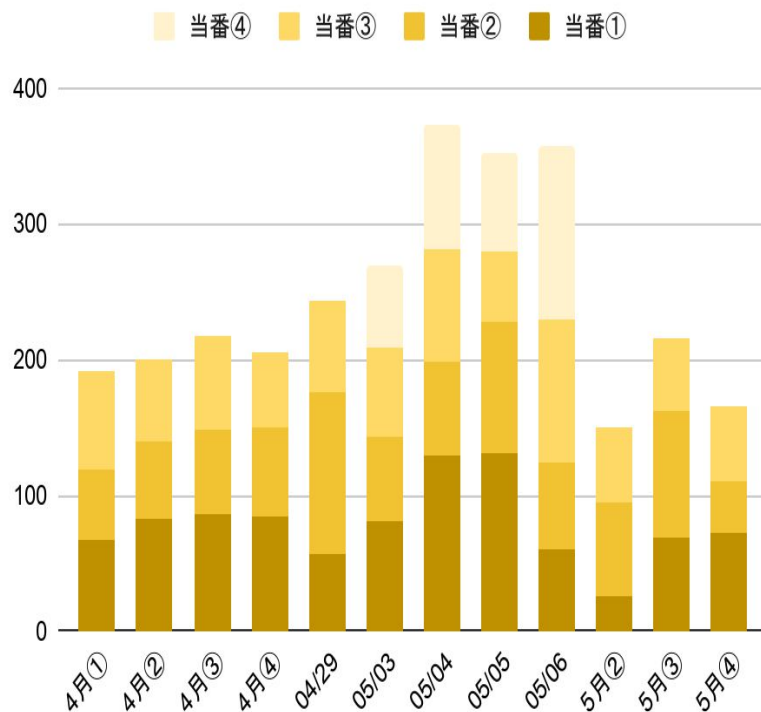


統計情報

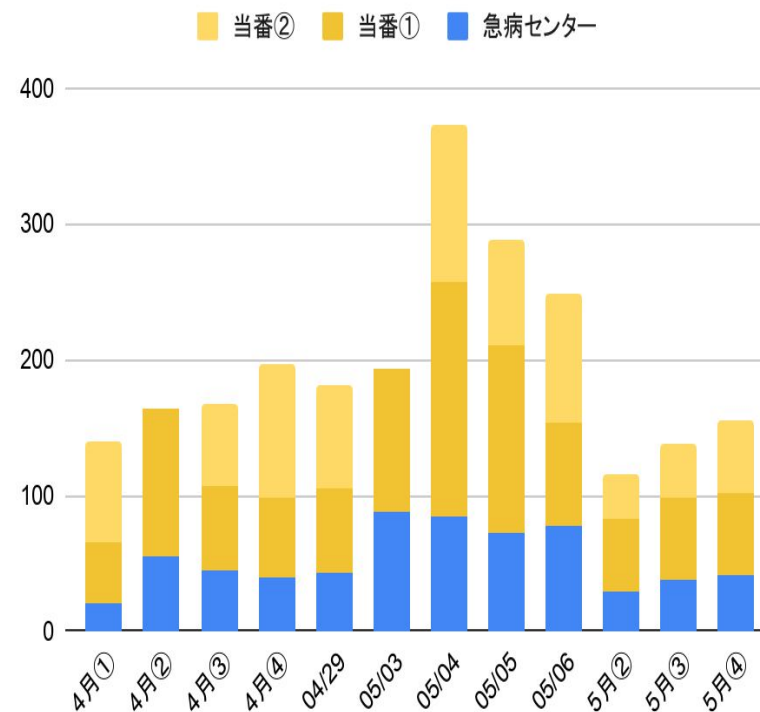
● 小児科の初期休日当番の利用患者数

● 令和8年4月から夜間休日急病センターにて、小児休日診療を開始

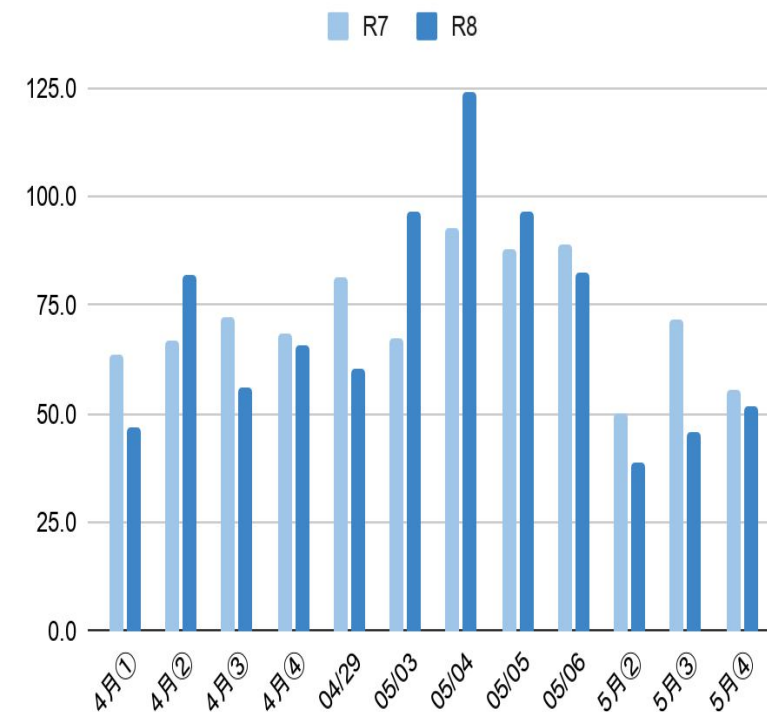
令和7年度(4月、5月)



令和8年度(4月、5月)



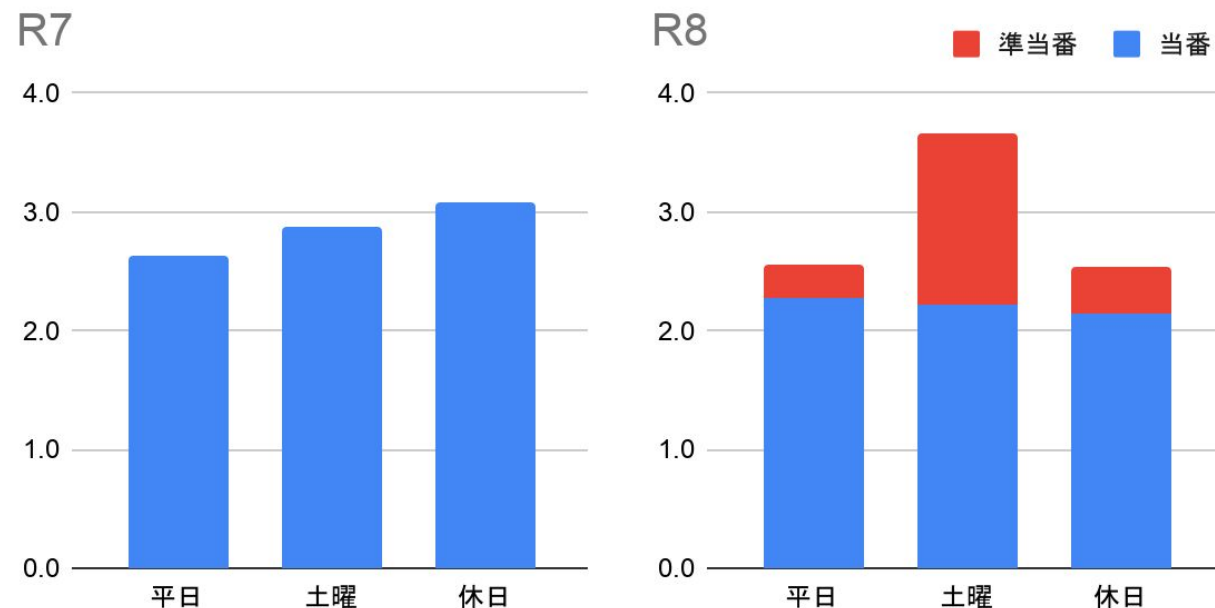
1施設あたりの患者数(平均)



● 令和8年4月から準当番を導入

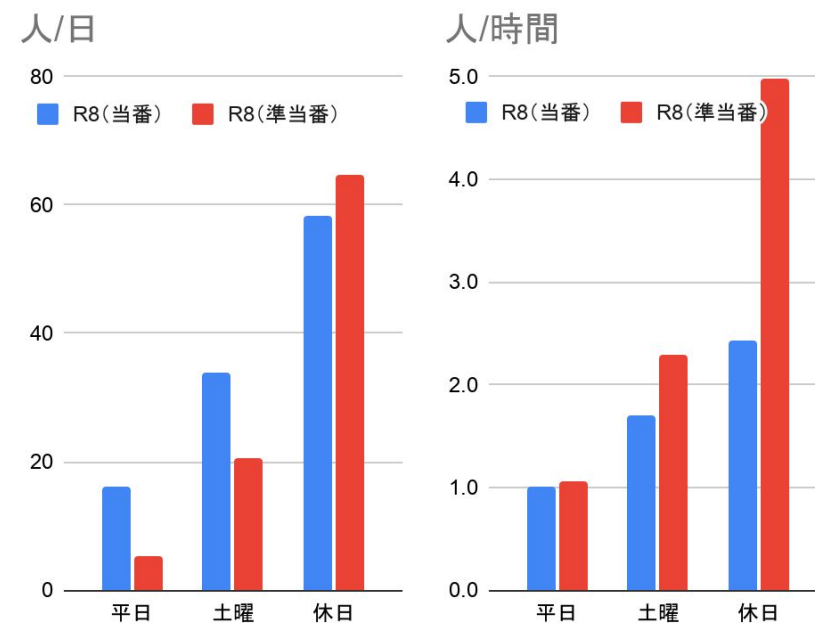
休日の受入体制に課題！

(1) 曜日ごとの平均当番施設数(施設/日)



※対象:4月・5月

(2) 1施設あたりの平均利用患者数



※対象:4月・5月



1 報告事項 その他

● 救急隊からの拠点病院への受入確認状況

年	搬送人員	搬送人員 (当番時間帯)	隊長選定で 当番病院以外 への搬送人員	割合	拠点病院への 救急隊長選定 初回受入確認 (当番日を除く)	割合
R5	99,696人	64,228人	11,358人	17.7%	3,046件	7.4%
R6	98,865人	64,004人	11,377人	17.8%	2,777件	6.7%
R7	99,691人	61,588人	10,736人	17.4%	2,797件	6.9%

● 救急隊視点からの救急医療体制

※件数は、令和6年と7年の2年間の合計

	搬送件数	平均 要請回 数	搬送困 難割合	拠点病院 合計搬送件数	1件目確認 拠点搬送	2件目確認 拠点搬送	3件目確認 拠点搬送
薬物中毒	911件	2.2回	11.5%	762件 (83.6%)	262件	275件	127件
アルコール	1,336件	2.0回	8.7%	667件 (49.9%)	205件	208件	153件
高齢者の肺炎	3,772件	1.8回	9.0%	1,653件 (43.9%)	759件	335件	203件
雪道事故転倒	2,001件	1.8回	8.2%	453件 (22.7%)	175件	71件	68件



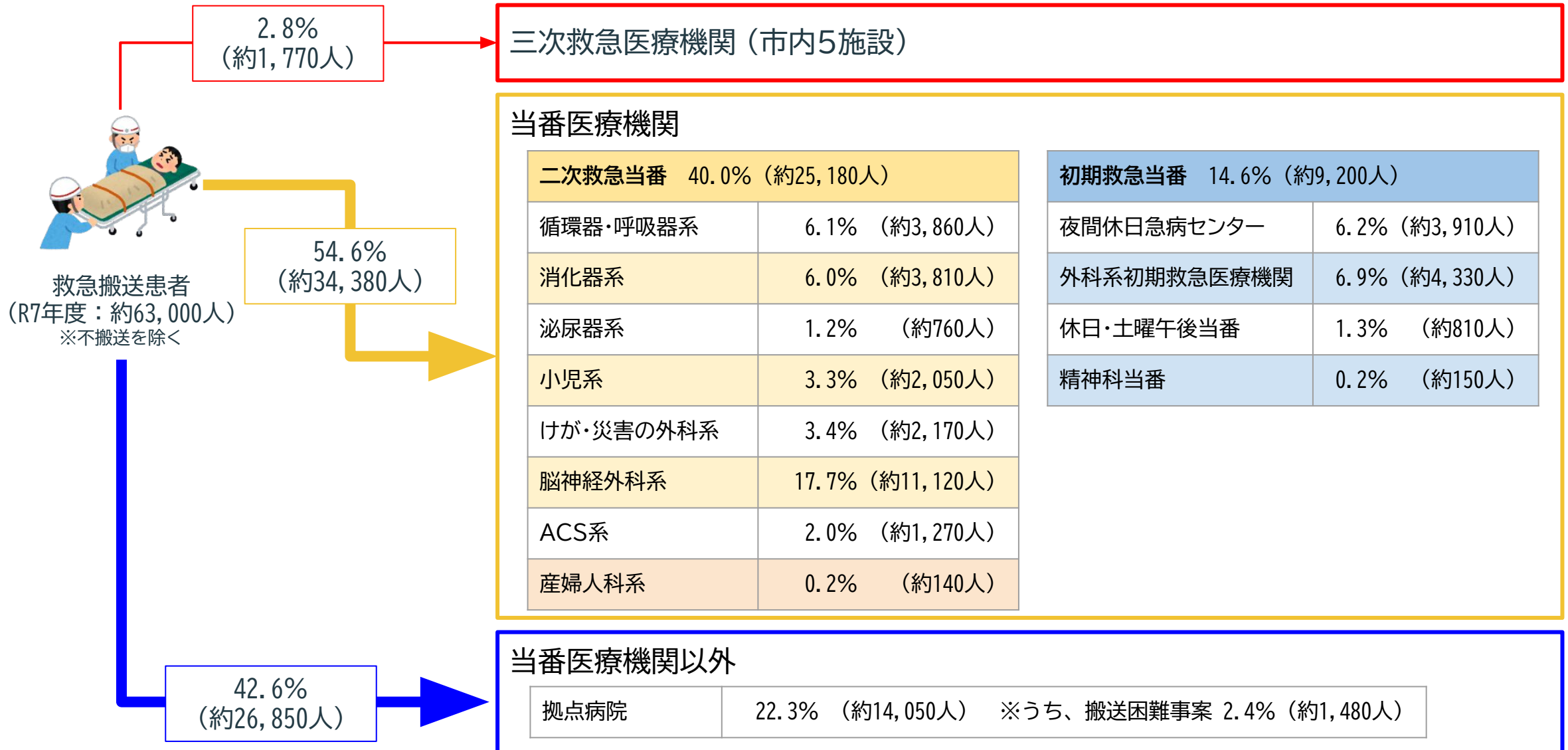
2 審議事項

二次救急医療体制の見直しの方向性について

二次救急

● 現在の二次救急医療体制(R7年度実績)

※札幌市消防局提供データより分析



1. 特定の診療科において輪番制の維持が困難
2. 拠点病院へ負担が集中し、受け皿が不足
3. 救急搬送患者の高齢化
4. 後方支援体制が未整備で役割分担が曖昧

1. 特定の診療科において輪番制の維持が困難

- 医師不足や働き方改革により、外科系等で単診療科輪番体制の維持が限界。

2. 拠点病院へ負担が集中し、受け皿が不足

- 6施設が救急搬送の約3割を受け入れ負担が集中
- 複数疾患に対応できる総合的な受け皿(複数科)

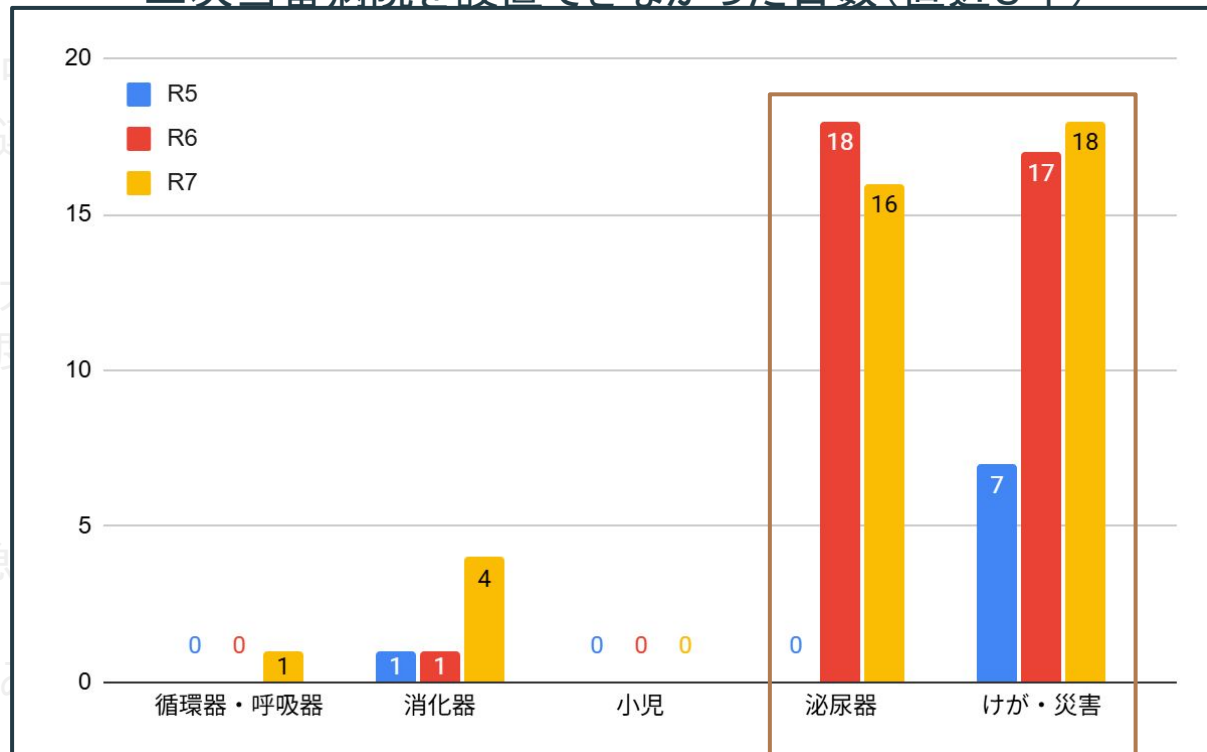
3. 救急搬送患者の高齢化

- 高齢救急搬送患者の増加により、救急需要の拡大
- 非手術・低侵襲の高齢患者により拠点病院の高齢化、重症対応力が阻害。

4. 後方支援体制が未整備で役割分担が曖昧

- 病態に応じた段階的な受け入れ・転院体制(亜急)が未整備。
- 転院調整支援システム(ICTツール等)は導入済、運用体制やルール整備が不十分で形骸化。

二次当番病院を設置できなかった日数(直近3年)



1. 特定の診療科において輪番制の維持が困難
 - 医師不足や働き方改革により、外科系等で単診療科輪番体制の維持が限界。
2. 拠点病院へ負担が集中し、受け皿が不足
 - 6施設が救急搬送の約3割を受け入れ負担が集中。
 - 複数疾患に対応できる総合的な受け皿(複数科連携)が不足。
3. 救急搬送患者の高齢化
 - 高齢救急搬送患者の増加により、救急需要の拡大が不可避。
 - 非手術・低侵襲の高齢患者により拠点病院の高度急性期病床が占められ、重症対応力が阻害。
4. 後方支援体制が未整備で役割分担が曖昧
 - 病態に応じた段階的な受け入れ・転院体制(亜急性期、回復期、療養期)が未整備。
 - 転院調整支援システム(ICTツール等)は導入済みだが、医療機関側の運用体制やルール整備が不十分で形骸化。

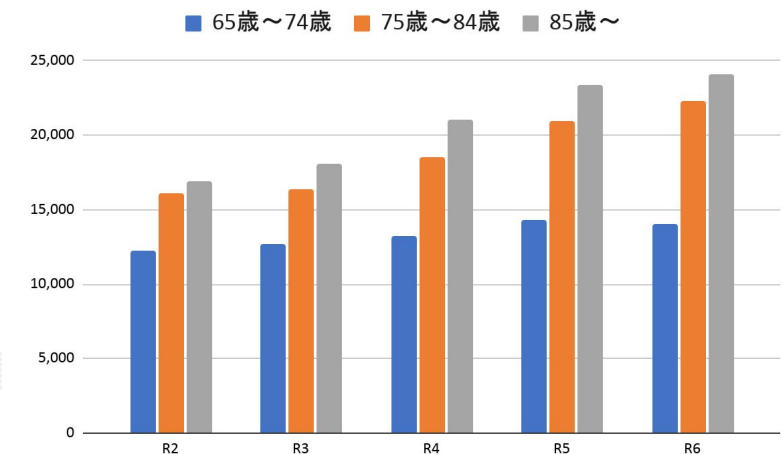
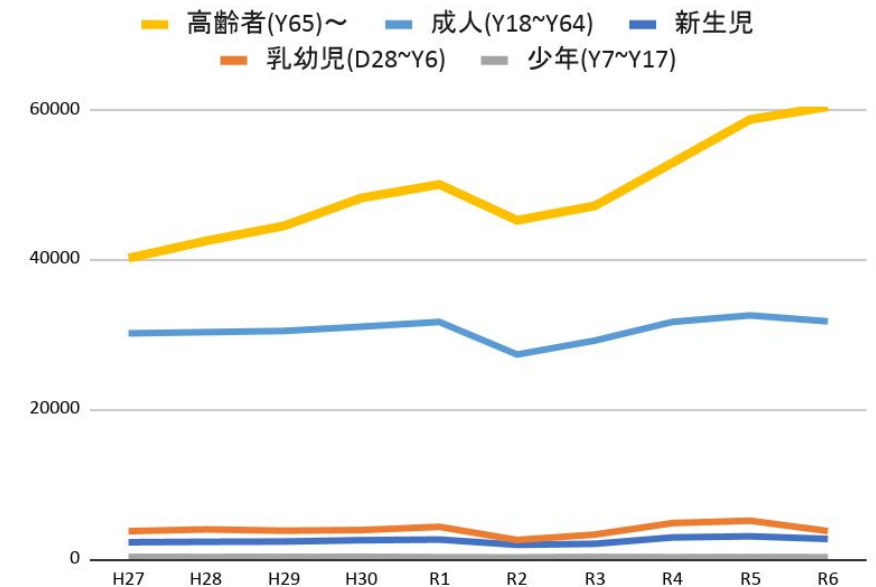
令和7年度 拠点病院の受入患者数
(救急時間帯・札幌市搬送分のみ)

医療機関	受入患者数(人)
拠点病院A	5,600
拠点病院B	3,700
拠点病院C	3,200
拠点病院D	3,100
拠点病院E	2,500
拠点病院F	1,500
合計	19,600

※札幌市消防局提供データより分析(概算)

1. 特定の診療科において輪番制の維持が困難
 - 医師不足や働き方改革により、外科系等で単診療科輪番体制の維持限界。
2. 拠点病院へ負担が集中し、受け皿が不足
 - 6施設が救急搬送の約3割を受け入れ負担が集中。
 - 複数疾患に対応できる総合的な受け皿(複数科連携)が不足。
3. 救急搬送患者の高齢化
 - 高齢救急搬送患者の増加により、救急需要の拡大が不可避。
 - 非手術・低侵襲の高齢患者により拠点病院の高度急性期病床が占有され、重症対応力が阻害。
4. 後方支援体制が未整備で役割分担が曖昧
 - 病態に応じた段階的な受け入れ・転院体制(亜急性期、回復期、療養期)が未整備。
 - 転院調整支援システム(ICTツール等)は導入済みだが、医療機関側の運用体制やルール整備が不十分で形骸化。

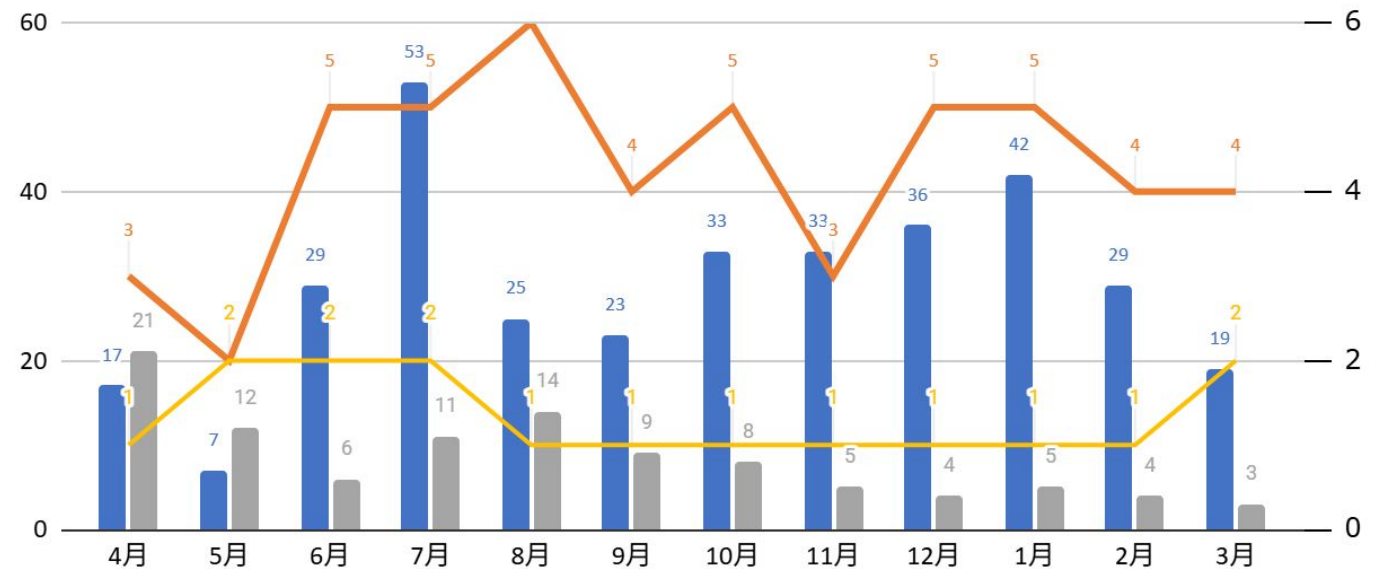
年齢別 救急搬送患者数



転院調整支援システムの利用状況

患者掲載数 (棒グラフ・左軸)
掲載医療機関数 (折れ線グラフ・右軸)

■ 2024年度データ
■ 2025年度データ



1. 特定の診療科において輪番制の維持
○ 医師不足や働き方改革により、外科限界。

2. 拠点病院へ負担が集中し、受け皿が
○ 6施設が救急搬送の約3割を受け入
○ 複数疾患に対応できる総合的な受け

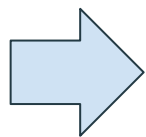
3. 救急搬送患者の高齢化
○ 高齢救急搬送患者の増加により、救
○ 非手術・低侵襲の高齢患者により捌
れ、重症対応力が阻害。

4. 後方支援体制が未整備で役割分担が曖昧

- 病態に応じた段階的な受け入れ・転院体制(亜急性期、回復期、療養期)が未整備。
- 転院調整支援システム(ICTツール等)は導入済みだが、医療機関側の運用体制やルール整備が不十分で形骸化。

国の動向を踏まえ、以下の点を重点事項として議論を進める

【重点1】 拠点・専門科への再編	単診療科輪番から拠点・専門医療機関への機能集約
【重点2】 高齢者救急の導入	高齢者救急等機能を担う受け皿の確立
【重点3】 後方支援体制の整備	病態に応じた段階的な転院体制の構築 (役割やルールの明確化)



上記事項の検討のため

「各医療機関等における今後の役割に関する意向調査」を実施するとともに、
どのように役割を分担するかを整理していく。

二次救急

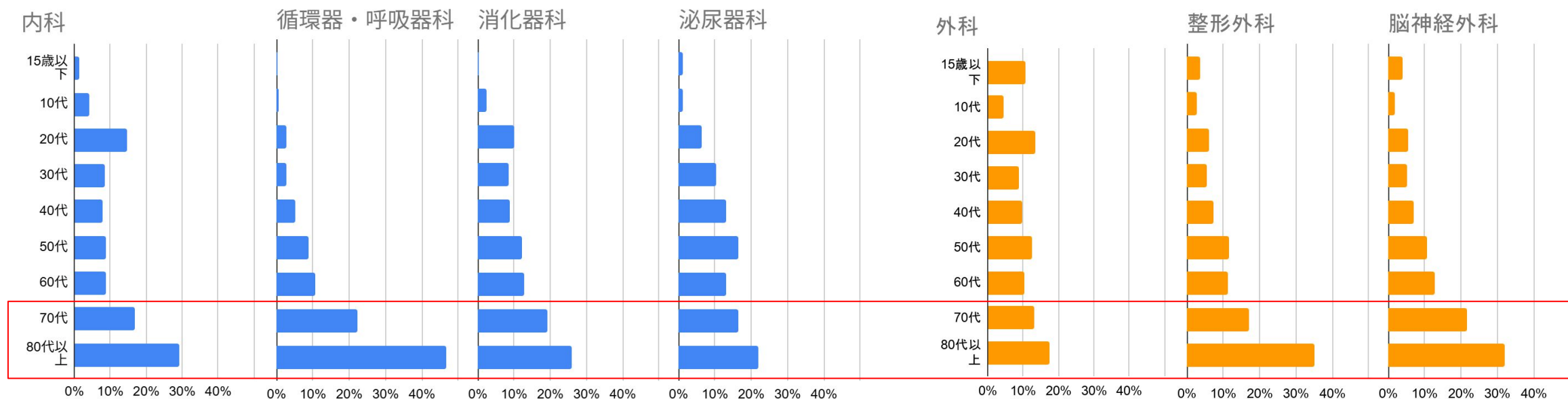
● 二次救急医療体制の見直しの方向性(イメージ)

現 行



二次救急

● 参考情報(選定診療科ごとの年齢別患者数割合: R7年度)



※札幌市消防局提供データより分析

1. 各診療系の輪番体制の継続可否および代替体制の検討

【審議事項①】 各診療系の輪番体制の継続の可否

現況を踏まえ、従来の輪番システムを維持するか、あるいは転換するかという基本方針の検討。

【審議事項②】 体制を継続しない場合(転換時)の体制整備の方向性

輪番制に代わる体制(拠点体制、専門医療機関への集約化等)への移行に向けた初期の方向性。

2. 市内医療機関に対する意向調査の実施

【審議事項①】 各医療機関等における今後の役割に関する意向調査の実施方針

拠点・専門科の再編や高齢者救急の導入、将来的な後方支援モデル構築を見据え、市内医療機関・関係施設の「今後の受入意向」を網羅的に把握するための調査実施の是非。

3. 救急搬送実績データの整理・共有について

- 当部会において、札幌市の救急医療体制の実態を客観的かつ正確に把握し、今後の実効性ある対策を講じるための基礎資料として、各救急医療機関における救急搬送患者の受入件数データを整理・共有することとしたい
 - **対象医療機関** 二次医療機関または救急告示医療機関等
※夜間休日急病センターを含む [2026.6.1時点で計85施設]
 - **対象期間** 各年度における月ごとの実績(4月～翌年3月)
 - **整理内容** 救急搬送患者の「受入件数」
 - **時間帯区分** 「全日」と「救急時間帯(夜間・休日等)」に区分して集計
 - **搬送区分** 全日、当番日(診療系ごと)
- 部会資料とすることは、実質的にデータの公開となるため、今後予定している各医療機関(病院)を対象とした「今後の救急医療体制に係る意向調査」の枠組みを活用し、本部会において上記の方針で受入実績データが共有される旨を事前にアナウンスし、趣旨の周知を図る

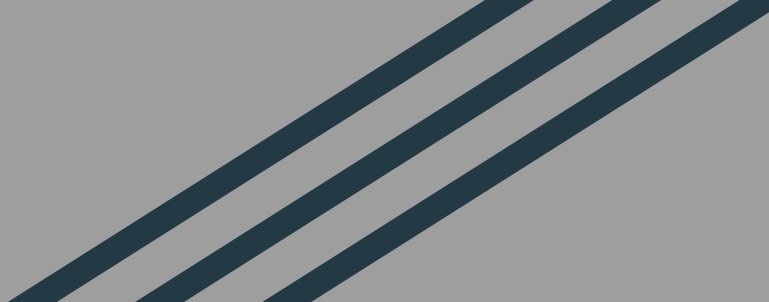
3. 救急搬送実績データの整理・共有について

【パターン①】月ごとの各医療機関の救急搬送受入件数(全日 or 救急時間帯)

全診療系	受入件数		
医療機関名	4月	5月	...
●●病院	200	150	
××病院	150	160	

【パターン②】診療系ごとの各医療機関の救急搬送受入件数(救急時間帯のみ)

消化器系	4月		5月		
医療機関名	当番日数	受入件数	当番日数	受入件数	...
●●病院	5	80	4	60	
××病院	3	40	4	55	



3 その他

次回の開催予定について

❖ 開催時期

➤ 第2回(10月ごろ)

❖ 審議事項

➤ 救急医療の課題

二次救急医療体制の見直しについて